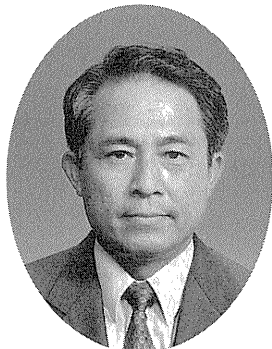


ずいそう



極意を御教授賜わりたく

松 崎 昭

今年の6月にワールドカップサッカーが日韓共催され、日韓両チームの予想外の活躍があって、国中がサッカー熱で湧きました。

私自身球技が好きで、種類を問わず首を突っ込み現役で2チームに所属してボールを追いかけて、一年中日に焼けております。不思議に球技でもゴルフは何年経っても上達しませんし、野球の翌日にゴルフ、ゴルフの翌日に野球という組合せでは、どちらも悪い結果になります。

様々なスポーツの起源や競技に対する国民人気という観点では、文化・生活様式などの歴史や地形を含めた自然環境が密接に関係していることは間違いありません。

競技としてのスポーツ形態を区分する場合、ひたすら個人能力の限界に挑むタイプと勝者と敗者とを冷酷に分けるマッチタイプがあります。

前者は、マラソンを含む短・中・長距離走、砲丸・ハンマーなどの投てき、ジャンプ、重量挙げ、スキー、水泳、体操など従来記録更新や競技点数を競い合うものです。これらのスポーツは、日常生活の動作の中から誕生したもので、一流選手になるには基本動作の繰返し訓練を要し、忍耐強くやらねばならないので、私には苦手の分野です。

後者のマッチタイプスポーツは、サッカー・野球など大多数の球技、相撲・柔道・ボクシングなどの格闘技があり、商業性を含めた人気の点からは、前者のスポーツとは比較になりません。これらのマッチタイプのスポーツには、個人マッチタイプと集団マッチタイプがあります。

日本固有のマッチタイプスポーツは、明らかに個人マッチタイプが優勢です。柔道・剣道・相撲など限定された区画の中で雌雄を決する、どちらかというとな静的なものです。この背景は、

日本人は古来農耕民族で土地に定着して稲作をし、釣糸を垂れて漁獲をしてきた事にあると思われまゝ。肉食のための獲物を得るために集団で行動する必要が無く、自分の限定された区画を守る必要があったのです。

一方、西欧を起源とするマッチタイプスポーツは、集団マッチタイプが優勢です。野球・サッカー・ラグビー・バスケット・アイスホッケーなど広い区画の中で、集団で作戦にもとづいて勝敗を決する、どちらかというとも動的なものです。この背景は、西欧人は狩猟民族で土地に定着せず、肉食のための獲物を追って、集団で獲物を追い込むなどの作戦を立てながら行動してきた事にあると思われまゝ。獲物を得るためにリーダーが作戦を立て、図抜けた身体能力の者がいる集団が多く、獲物を手にし、勝者であった筈です。現在のスポーツチームにマネージャーやコーチがおり、イチロー選手をもつマリナーズが勝者であることは、狩猟と変わりありません。

私自身この集団マッチタイプのスポーツが好きで、プレーヤーやマネージャーを経験し、現在の勝敗度外視のプレーヤーでもスポーツの面白さに変わりありません。

西欧を起源とするマッチタイプスポーツで、いつも異質に感じているのがゴルフというスポーツです。個人能力の優劣を競う競技で、地形・風や相手競技者のメンタルな面も考慮せねばならぬ、ややこしいスポーツであるために、単純思考回路の私には合わないのだろうと諦めています。ゴルフ場は緑が美しいし、偶に良いショットが出ることもあり好きなのですが、私の中の何かが変わらないと良いプレーヤーになれそうにありません。他の球技をやりながらゴルフを極められた方、ぜひ極意をお教え下さい。

—まつざき あきら 川崎重工業株式会社執行役員—